

## 新選組パーソナルガイドツアーご案内

【期間】 5月12日（月）～7月18日（金）

ツアー実施の可否およびコースなどは下記【お申し込み先】までお問い合わせください。  
標準プランのコースにある角屋もてなしの文化美術館は、ツアー実施の可否にかかわらず  
月曜日を休館日（月曜祝日の場合は翌火曜休館）とさせていただきます。

【ガイド時間】 午前の部 9時～12時 3時間  
                  午後の部 13時～16時 3時間

【コース】 本光寺～島原エリア（角屋等）～壬生寺  
              ～八木邸～光縁寺（標準プランは次ページ）

【ガイド料金】 5名様まで 7000円/1グループ  
                  6名～10名様まで 10000円/1グループ  
                  \*拝観料、見学料は別途必要です

【お申込み日】 ガイド催行の7日前までにお申し込みください。  
                  キャンセルは3日前まで、以降は50%のキャンセル代が発生します。

【お申込み先・詳細】

京都歴史観光案内人倶楽部 担当：竹内

☎ 090-5122-4830（受付9時～17時）

✉ [yytl9344@outlook.jp](mailto:yytl9344@outlook.jp)

# 幕末の京都を駆け抜けた新選組の足跡をたどる

## 標準プラン（出発が京都駅前の場合）

京都歴史観光案内人倶楽部

「京都 新選組」

京都には新選組の史跡がいっぱい。新選組の誕生から、京都での絶頂期、そして、伏見へ。

「鳥羽・伏見の戦い」で敗れた後に、大坂を経由して、江戸へ下向。新選組の足跡をたどることで、彼らの生きた幕末を感じることができます。

### コース順（写真は午後のコース。午前コースはこの逆になります）

①



本光寺

近江屋事件から3日後の慶応3年11月18日（1867年12月13日）、伊東は近藤に呼ばれ妾宅にて接待を受ける。酔わされた伊東は、帰途にあった油小路の本光寺門前にて新選組隊士の太田垣連月尼の歌碑がある。又見返りの柳も情緒を感じる

②



島原大門

輪違屋（わちがいが）は、現在も営業を続けている。創業は元禄元年（1688年）、置屋として始まる。。お茶屋兼業は明治5年（1872年）より。現在の建物は安政4年（1857年）に再建されたものであり、明治4年（1871年）にほぼ現在の姿となった。

③



輪違屋

旧花街島原の角屋（揚屋建築唯一の遺構で国指定の重要文化財に指定）。江戸時代京都において民間最大規模の饗宴場。西郷、木戸、伊藤らの明治の元勳そして新選組が頻繁に利用。刀傷が多く残る。

④



島原角屋

旧花街島原の角屋（揚屋建築唯一の遺構で国指定の重要文化財に指定）。

江戸時代京都において民間最大規模の饗宴場。西郷、木戸、伊藤らの明治の元勳そして新選組が頻繁に利用。刀傷が多く残る。

【見学料金】 1階 1000円  
2階 800円

7月18日まで開館

⑤



壬生寺

名刹壬生寺。芹沢鴨等の墓がある。近藤の遺髪塔もある。壬生狂言は京都三大念仏狂言の一つとして有名で、重要文化財の舞台で行われる。土方歳三の胸像も近年建てられた。公開時間は9時～16時となっている。

【拝観料】300円

⑥



八木邸

新選組最初の屯所。芹沢鴨が粛清された部屋が残っている。又刀傷も残り、現場の生々しさを感じる。壬生にいた時期に、池田屋事件など新選組の最盛期を築いた。往時の隊士たちと空間を共有できる時間を愉しむことができる。抹茶と屯所餅付。ガイドが30分案内。圧倒的にリピーターに人気。

【見学料金】1100円

⑦



旧前川邸

前川本家では、壬生の地が京の町はずれにありながら、二条城に近いという点で、地理的条件にも合ったことから、自分の身内である前川荘司の屋敷を提供。浪士組は前川邸を中心に八木邸、南部邸（現存していない）、新徳禅寺に分宿した。これが新選組の出発点となった。

\*土、日はグッズ販売あり。 通常非公開

⑧



光縁寺

選組副隊長であった山南敬助は、寺の瓦に「丸に右離れ三つ葉立葵」が山南家と同じ家紋であったことから当時の住職である良誉上人と親交が生まれ、屯所で切腹した隊士などが埋葬されることになったという。また、山南自身も新選組を脱走して、旧前川邸に戻されて切腹。介錯は山南の希望で沖田総司が行なった。そして、光縁寺に埋葬された。